

令和7年度岡山県立瀬戸南高等学校 学校評価書

校長 古澤 氏由児

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

学校経営計画書の学校経営目標の6つの項目について、それぞれに具体的な目標・計画を提示することにより、目標達成に向けた具体的な方策を設定しやすくしている。年度当初各課長等を中心に方策を設定し、9月に中間期の検証を、2月に最終評価を行った。

- ① **礼儀正しい生徒の育成**：全体的に落ち着いた学校生活を送ることができていた。自ら挨拶をする生徒は増加傾向にある。身だしなみは、一部の生徒で乱れが見られた。人権への配慮に欠けた言葉がSNS上に書き込まれる事例が発生したことから、情報モラルの向上が必要である。
- ② **学力向上と進路実現**：専門知識の習得、キャリア教育の充実が図られ、ICT機器の活用が進んだ。基礎学力の定着・向上は課題である。主体的に進路決定に向けた学習を進められるよう、一人一台端末の効果的な活用が求められている。引き続き、キャリア教育で身につけさせたい能力を意識した指導を継続していくことが重要である。
- ③ **自主活動の活性化【※本年度重点項目】**：創立百周年記念行事(式典、体育祭、文化祭等)やシクラメン祭の復活等、生徒主体の取組が増え、成長を実感できた。同窓会、PTA、保護者等の理解と協力によるところが大きい。部活動の日を設けながら取り組んだが、年度当初の部活動入部は6割で、年間を通して、あまり活発ではなかった。
- ④ **将来のスペシャリスト(グローバル人材)の育成**：プロジェクト活動や学科の学びの中に前向きに専門性を高める取組を計画的に導入することで、効果的な結果を得ることができた。
- ⑤ **地域社会・保護者から信頼され愛される学校づくり**：学校HP、SNS、報道等により情報発信ができた。本校の存在意義を明確にし、更なる魅力化を推進する必要がある。担任が家庭との連絡を密にして、連絡を取り合いながら前進することができた。教育相談の更なる充実が求められる。
- ⑥ **業務の精選と魅力ある職場環境づくり**：通常業務に加えて周年行事等が重なり、特に前半は業務過多が見られた。ICTで業務の軽減が図られているが更なる活用が求められている。PTAと協力して学校行事を行うことができた。外部人材の活用により更なる勤務負担軽減を図る必要がある。

2 学校関係者評価委員名(学校運営協議会委員名;50音順)

| | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 尾崎 勝(本校同窓会会長) | 岸本 静香(本校PTA会長) |
| 木村 大(IPU環太平洋大学特任教授) | 坪井 秀樹(赤磐市教育委員会教育長) |
| 中村 哲郎(岡山県農林水産総合センター農業大学校長) | 西山 径(岡山市立瀬戸中学校長) |
| 古澤 氏由児(本校校長) | 安井 盛(学校法人旭川荘厚生専門学院入試広報課長兼学生課長) |
| 山崎 桂司(岡山市東区役所瀬戸支所長) | |

3 学校関係者評価

自己評価①④⑤の総合評価はAとする。自己評価②③⑥の総合評価はBとし、自己評価の全てを追認する。今年度は創立百周年で生徒が活躍し、よい行事ができた。これを契機として、生徒に選んでもらえるよう、よりよい学校づくりを目指して取り組んでいただきたい。生徒の自己効力感を育むキャリア教育コンテンツの導入に期待する。来年度は、具体的かつ明確な目標及び計画を立て、客観的な達成基準を設定するなどの学校評価の見直しを行い、学校運営の改善につなげていただきたい。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

来年度は、「学力向上と進路実現」を重点に掲げる。学校評価では、基礎学力の定着に課題があり、「授業以外の学習に取り組んでいる」生徒の肯定的回答の割合が低いことから、生徒の自己効力感を高め、学ぶ意欲の向上を図るための教員の関わり方についての共通理解や全校的な取組が必要である。そこで、「瀬戸南版授業スタンダード」を再構築し、主体的で対話的な深い学びを推進したい。また、総合的な探究の時間による探究的な学びの充実と、キャリア教育・進路指導により進路実現を図りたい。